

羅 針 盤			方 策	点検・評価			達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	達成度		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は80%以上である。	・特別活動や学校行事の運営をできる限り生徒主体になるように計画し、生徒が活躍する場を設け、生徒の達成感の向上を図る。	A	A	A	・学習指導を充実させ、学校行事においても生徒主体で行うことができた。 ・学校行事についてはその数が少ないという声が上がってきている。定期戦の終了などもあるが、生徒主体の行事の開催を検討していく。	・生徒が学校を好きな割合は高い。 ・新行事開催等について期待したい。 ・主体的な教育活動が大切である。
		② 55分6限の授業に満足している生徒・保護者が80%以上である。	・十分な教材研究に基づくわかりやすい授業の実践をする。 ・チャイムスタート、エンドを実践し学習時間を確保する。 ・シラバスの活用と改善に努める。 ・忍耐力・判断力・表現力の能力向上を目標としてICT機器等を活用しながら授業改善をはかる。	A	A	A	・55分授業においては職員・生徒ともに定着している。シラバスや観点別評価を基にわかりやすい授業の実践をすすめる。 ・授業改善に向けた職員研修等を定期的に行う。	・授業内容が充実していることがうかがえる。
		③ 授業日を確保しながら学校の活性化を図っていることを肯定的に受け止めている生徒・保護者が80%以上である。	・授業時間を確保しながら、学校行事等とのバランスを考慮し、メリハリある生活の実現により生徒・保護者の満足度をさらに高める。	A	A	A	・学校行事を生徒主体で、例年通りの形で実施することができた。 ・マラソン大会の中止や沼高との定期戦終了に伴い、生徒が主体的に活動できる行事が減ってしまった。生徒会等と連携しながら新しい行事の模索をしていく。	・授業・行事のバランスが良い。 ・新たな行事の導入に期待。 ・文武両道を今後も発信してほしい。
		④ 類型選択や科目選択に満足している生徒が80%以上である。	・科目選択説明会を開催し、選択科目や類型選択の位置づけやしくみを分かりやすく説明し、面談などで個別に理解を深めさせる。またPTA総会等を通じて保護者の理解も深めていく。 ・本校に適した教育課程の検討を行う。	A	A	A	・類型・科目選択については、説明会を丁寧に行った。また、生徒の進路希望を踏まえて、面談等を丁寧に行い生徒の進路実現につながるよう指導を行った。 ・進路指導部、探究部と連携してキャリア教育や探究活動を充実させる。また、令和7年度教育課程においては適宜見直しをおこない、問題点等がないか検討を続ける。	・科目選択等、生徒に丁寧な説明が行われている。保護者への説明も充実させてほしい。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤ 少人数・習熟度別授業を肯定的に受け止めている生徒が80%以上である。	・少人数、習熟度別クラス分けの時期や方法を工夫する。 ・学力に合った適切な授業を提供し、満足度を高める。	A	A	A	・各学年とも少人数・習熟度別授業に満足している生徒数が多い。 ・生徒のニーズに応えられるようにクラス編成を行い、進度や難易度の調整等を行う。	
		⑥ 授業や学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が80%以上である。	・教科会議や職員研修で授業アンケートの結果を分析し、生徒が主体的・自主的に取り組めるよう授業を改善する。	B	B	B	・1、2年生では目標数値を下回り、3年においては若干目標数値を上回っただけである。 ・生徒の学習への意欲を喚起すると共に、生徒の学力向上に向けて、職員全体で授業改善に取り組む。	・3年が満足度を満たしているということは、内容の伴った授業が展開されているということ。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦ 家庭学習時間の平均が1、2年生は2時間以上、3年生は4時間以上である。 ⑧ 全国模試における平均偏差値（型別・科目別）が50以上である。	・家庭学習時間調査の結果を進路指導部、学年会で検討し、学習時間の増加に向けた課題や面談を通して生徒の学力の伸長を図る。その際に学年間、クラス間の指導に差異が出ないように心がける。 ・模試結果の分析を教科担当者だけでなく、教科・学年全体で検討する機会を設ける。出てきた課題に対して進路指導部と学年、教科が連携して必要に応じた策をとる。	B	B	B	・1、2年生は目標数値(学習時間調査③11月)を達成することができたが、3年生は達成できなかった(学習時間調査①6月)。1、2年生には、適切な量の課題を課すなどして、学習時間の増加を促進したい。 ・1年生は目標数値を国英数総合で達成した。2年生は5教科文系で達成した。3年生は6教科9科目文系型で達成した。卒業後の進路実現を意識させながら学力を定着させていきたい。	・3年になってからのスイッチが入らない状況がみられる。 ・学習意欲の向上が必要。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑨ 生徒の動向に関する学年会議や分掌会議を週1回以上行い、情報の共有を図る。	・時間割に会議の時間を組み込み、情報交換を密に行う。 ・学年と分掌の情報交換を密にする。	A	A	A	・各会議を週1回実施し、生徒について情報共有を確実に行った。 ・各生徒についてきめ細かい情報を効率よく共有するため、情報共有シートを継続して活用していきたい。	・情報共有は適切に行われている。
		⑩ 学級担任による個人面談を年に3回以上実施する。	・生徒との面談時期を設定し、計画的な相談活動を行う。 ・日常的な声かけを継続する。	A	A	A	・各担任が積極的に面談の機会を設定し、生徒の状況や考えについて詳しく把握した。 ・設定された面談期間のほか生徒の状況に応じて臨時的な面談を行い、さらに詳細に状況把握に努める。	・先生方は生徒一人一人の状況を把握している。 ・面談により生徒の目標が明確になっている。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑪ 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行うとともに、相談窓口などをしっかり伝えていると考えている生徒・保護者が80%以上である。	・定期的にアンケートを実施し、生徒の悩みに早期に対応できるようにする。 ・生徒会を中心にいじめ防止月間など利用して、学校全体でいじめ防止に向けた取組を行う。 ・教育相談便りやリーフレットを定期的に発行、配布する。	A	B	A	・しっかり伝えていると回答した割合は保護者は80%以上、生徒は78%であった。いじめ防止強化月間を年2回実施しているが定期的アンケートや日常的な状況観察により早期発見に努めている。 ・生徒・保護者・職員が一丸となっていじめを許さない雰囲気形成するとともに、小さなトラブルに早期に気付ける態勢を整えていじめの未然防止に努め、発生した際には法に基づき迅速・的確に組織対応していく。	・いじめにはしっかりと対応している。 ・子供からは「いじめはない」と聞いている。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑫ 学校行事や部活動に積極的に参加していると考えている生徒(子供が積極的に参加していると考えている保護者)が80%以上である。 ⑬ 1日の平均遅刻者数は、全校生徒の1%以下である。	・学校行事に向けた準備や部活動の様子を生徒会新聞等で紹介するなど、計画的かつ積極的に学校行事や部活動を実施、運営し、生徒が学校生活に前向きに取り組める体制、環境を構築する。 ・家庭との連絡を密にし、欠席・遅刻・早退の防止に努め、基本的な生活習慣の確立を図る。特に遅刻指導に重点を置き、時間厳守の習慣化に努める。	A	A	A	・生徒の約90%、保護者の90%以上が積極的に活動していると回答した。感染症および熱中症防止策に細心の注意を払いながら各行事を実施することができた。 ・社会情勢に合わせた感染症・熱中症対策を検討しつつ、積極的に部活動や学校行事を行い、学校のさらなる活力向上を目指していきたい。 ・1日の遅刻者数が在籍比2%となってしまった。生徒の健康管理などについて指導を続けていきたい。 ・生徒のより良い生活習慣の確立と、魅力ある学校生活の実現を目指して努力していく。	・行事に対して、生徒が自主的に参加している様子がうかがえます。 ・新たに生徒主体で取り組める行事を開催してほしい。 ・挨拶がしっかりと行えており、さわやかさを感じる。 ・共働きの家庭が増加しているため不規則な生活習慣になりやすい。学校だけでなく家庭での指導も必要。

羅 針 盤		方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価	
評価対象	評価項目		具体的数値項目	自己評価				外部アンケート等
					総合			
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑭ 交通事故の発生率が全校生徒の1%以下である。	・SHRなどを通じて日頃から安全意識を育てる指導を行い、交通ルールの遵守について徹底するとともに、交通法規について学ぶ機会を設ける。 ・交通安全教室やマナーアップ運動などの機会を利用して、交通マナーの向上に努めさせる。	B	B	B	・交通事故発生率が2.7%となってしまった。大きな事故は起きていないが予防策に取り組む。 ・交通安全通信やヘルメット着用指導を通じて安全意識の高揚をの実現する。	・自転車通学が多いので事故は起こりやすいが、学校と家庭が連携して指導していけばいい。
		⑮ 安心して学校生活を送っていると考えている生徒・保護者が90%以上である。	・学年・学級運営において生徒一人一人との関わりを密にするよう配慮する。 ・規律正しい学校生活を送れるよう指導するとともに、教育相談やスクールカウンセラーの活用方法を周知するなど、生徒が相談しやすい環境を整える。	A	A	A	・生徒・保護者とも約95%が安心して学校生活を送っていると回答した。 ・現在の指導方針を維持し、さらに安心して生活できるよう環境を整えるよう努める。	・安心して学校生活を送っている生徒が非常に多いと感じる。今後も継続してほしい。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑯ 進路に関わる資料・教材を有効に活用している生徒・保護者が80%以上である。	・進路に関わるデータ、資料や教材を、生徒が有効に活用できるよう指導する。また、保護者にも進路資料等が届くよう配慮する。	B	C	C	・全学年とも65%未満であった。低学年のうちから進路情報の意義や活用法などを丁寧に説明する必要がある。 ・教職員に対しても活用法に関する研修を検討したい。	・膨大なデータを取捨選択できるよう指導してほしい。
		⑰ 進路指導計画に基づいて実施している補習や学習室の環境におおむね満足している生徒が80%以上である。	・生徒の学力に即した補習が実施されているか学期単位で確認・修正していく。また、学習室の環境整備に努める。	B	B	B	・1、3年生は80%以上であったが、2年生は75%弱であった。学習室の利用状況は12月現在、1日平均20名を超えている。2年生の満足度に関しては、土曜補習の出席率にも表れている。補習の意義に関して再度確認していく必要がある。	・補習授業の選択の幅を広げてほしい。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑱ 3年間を見通したキャリア教育プログラムへの肯定的な参加が80%以上である。	・総合的な探究の時間を活用した本校のキャリア教育「I Program」のスムーズな運営に努める。LHRにおいても適切な資料を作成し、生徒の進路選択をサポートする。	A	A	A	・各学年とも目標数値を達成できた。1年生と2年生は90%を超え、3年生でも85%を超えている。キャリア教育の意義を実感している生徒が多いと思われる。 ・学年が上がるにつれて数値が減少していることもあり、より充実した内容のプログラムとなるように計画・実践し、より良い進路選択につなげていきたい。	・先を見据えれば有効なプログラムである。今後も目標値を維持してほしい。
		⑲ 進路実現に向けて取り組んでいる生徒が95%以上である。	・授業、家庭学習の充実とキャリア教育・進路学習をその補完としながら、目標を明確にし、その実現に全力を注がせる。	B	B	B	・3年生でも93%に留まり、1、2年生は80%を少し超える数値であった。 ・入学当初から学習する意義を伝え、探究活動に関連した行事等を活用して進路意識を高めていきたい。	・入学時から目標を立て、目的意識をもって学習できるようお願いしたい。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑳ Webページを月1回以上更新する。	・保護者・生徒に有用で適切な情報を適宜発信するよう努力する。	A	A	A	・定期的に学校生活や部活動の取り組み状況等を更新することができた。 ・Webページのレイアウト等の見直しを行い、見やすくより情報発信しやすいものとする。	・学校からの発信は適切に行っている。配布物が保護者にわたるよう指導願いたい。
		㉑ 学年保護者会等に積極的に参加している保護者が60%以上である。	・感染症に注意しながらPTA総会や学年別進路講演会を集合形式で開催し、保護者への情報発信の場とする。	B	B	B	・約50%弱の出席であり、目標数値には達成していない。平日開催であるため適切な参加者数と思われる。今後、参加者数を増加させるためには形式の改善が必要である。	・平日開催だと参加は困難。 ・休日、夜間は双方の負担になる。今のままの形式でいいのでは。
		㉒ 授業公開を年1回以上実施する。	・学年別進路講演会と連携し、授業公開をすすめる。また、中学生やその保護者向けの授業公開も同様とする。	A	A	A	・学年別進路講演会と連携し、学校公開を行うことができた。第2回学校説明会においても授業公開を行い、また当日参加できなかった中学生についても別日を設定し学校説明会・授業公開を行った。 ・次年度も柔軟に対応し、できる限り多くの保護者、中学生に学校の様子を知ってもらえるように努める。	
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉓ 学習支援ソフトウェアを週1回以上利用している。	・授業の進行と並行して、生徒の理解を深め、学力を定着させるような学習支援ソフトを用いた課題設定等を行う。	B	B	B	・生徒の学習支援ソフトウェアの利用率は低下してきている。BYODの導入とともに学習活動に活かせるように指導・支援をしていく。	・新しい学習ツールとして利用方法を検討していったほしい。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉔ ICTを活用した通知やアンケートに、生徒・保護者の70%以上が満足している。	・ICTを積極的に活用するために、担当者を中心として全職員で推進していく。	A	A	A	・学校、各学年からの通知や連絡等を細かく発信した。今後も情報発信、連絡、アンケート等に有効活用していく。	・ICT活用については、積極的に行っていると感じる。